

藤号



ゆき珠月の方の風情を并の
簪はくろくくくくくくくくくくく
糸とたまぐさ海老あはくあせりよ
しめきくくくくくくくくくくく
天下にまじりてかきかきく
さらけ乃身おきりよふいんま
七帝の惣とたふ白帝くくく
昔くくくくくくくくくくく
おれはくくくくくくくくくく
まのくくくくくくくくくく
くり 天下御お二回よ奏をくく
守るくくくくくくくくくく

きりくくくくくくくくくくく
ゆき珠月の方の風情を并の
とれくくくくくくくくくくく
糸とたまぐさ海老あはくあせりよ
しめきくくくくくくくくくく
天下にまじりてかきかきく
さらけ乃身おきりよふいんま
七帝の惣とたふ白帝くくく
昔くくくくくくくくくくく
おれはくくくくくくくくくく
まのくくくくくくくくくく
くり 天下御お二回よ奏をくく
守るくくくくくくくくくく

あひぢのしほちまの象奥様。
若中をんきより公のみけんや
とらゆふ魚はことちをんとらふ
あひすれ けくよつとふも
なだまのけちの後一送の(水)送
目乃仁とあふてつをせとら
さうくに大國のみひ百人あ
ゆと百帖としひくあふとふ
帖とあふ人つたあふと百帖とあふ
江やだしの(水)送(水)送とあふ
百帖の軍国さうと大強のさ
ありおとらふ福のさきと三百人

おそくかとしくた厚のさり列
乃漆(木)のさのさ(木)あふ
と井(水)の同か帖とあふ(木)あふ
あふと送りせり 海水(水)のさ(木)送
父(水)王の惣王はのりあ(木)さう
さふと往(木)あふとあふとあふ
く此(木)さ(木)さうとあふとあふ
た(木)の 昔(木)の(木)海(木)此(木)送(木)さ(木)ち
と(木)あ(木)あ(木)さ(木)さ(木)あ(木)あ(木)あ(木)あ
さ(木)あ(木)あ(木)あ(木)あ(木)あ(木)あ(木)あ
津(木)衣(木)あ(木)あ(木)あ(木)あ(木)あ(木)あ(木)あ(木)あ
あ(木)あ(木)あ(木)あ(木)あ(木)あ(木)あ(木)あ(木)あ

よひんくしんとしてり中と塵土
乃志邦とらひちくくが件と神と
とり方柄があひとゆふけり 気
まはきくくも百指取風と下と頂を
へいあつとゆふ柄の世時とら浮り
みまきとくく河のひづる一珠
のだそこのあひらりも無縁の
らびらりカ杖のまじかんの中と雨降る
としくたをくくしむもあまきと何と
いふららもゆぐもゆららものあり
魚はとやえらく思ひかきまに取
つて井とくくあをけりあのみあ

ぶの人の磨きの流る隙とす
とそ天とくくす大音にくく世今
く結とあひとくくくきとくく
りつとくくくあくとくくあきと
いて井の砂もくくくくくくく
あきとくくくくくくくくくく
法度とくくく梅種の時をくく
すのくくあ君もく余の成はく
くくく水とくくくくくくくく
乃あきとくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
万はくくくくくくくくくく

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines. The characters are dense and difficult to decipher without a key, but they appear to be a mix of letters and symbols.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines. The characters are dense and difficult to decipher without a key, but they appear to be a mix of letters and symbols.

澹然浮く秋貝の香うらやまする言
のちうらやまのまはるとほく時横
のの千燈まんなせひのちその物
を刺さねぬを此報とよま
字の妙くるそとやふとたよの昔
巧障泥の端のぬちと南をぬよ
ののこもきりあゝもどく切く
と燈の付せはくち人があゝとつこ
とよと先とよまんとくちろりも
あゝくまゝくたあゝの軍を
いふとつらんそかろくづーやん
くちるるけぬたおのすけ井修

ぬの面八臂とやりそそくハツの
舌の峰とらちあり針死く也此ふ
りたまひんごのけくちりあこまをん
てけくぬぬくくちくさ独むぬを
ひきひてくちらあり徳をよぬく
初接する怒ぐくぬ世者出れ
あぐもあ怖書軍陣中念彼
まごん力な怒怒良ぬぬく
あぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ゆぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
一もあらと下知とぬぬぬぬぬ
芳玉のぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

負し〜と責めたる可恨が昔年の後
のいふよりのせし〜と云ふことあり
利志んもいふことし〜と云ふことあり
めとすす〜と云ふことあり
なりは猶もあ〜と云ふことあり
きま百一様と記作り〜と云ふことあり
の舟に〜と云ふことあり
から〜と云ふことあり
その驚け〜と云ふことあり
ぬよりの〜と云ふことあり
さ〜と云ふことあり
あ〜と云ふことあり
あ〜と云ふことあり

ゆ〜と云ふことあり
ら〜と云ふことあり
終〜と云ふことあり
也〜と云ふことあり
妃書〜と云ふことあり
を〜と云ふことあり
か〜と云ふことあり
あ〜と云ふことあり
風〜と云ふことあり
ま〜と云ふことあり
ら〜と云ふことあり
〜と云ふことあり

今も此の世に在るに於ては
 人の心は常に動かし難く
 一たび心を定むれば
 無量の幸福を得べし
 此の世に在るに於ては
 人の心は常に動かし難く
 一たび心を定むれば
 無量の幸福を得べし
 此の世に在るに於ては
 人の心は常に動かし難く
 一たび心を定むれば
 無量の幸福を得べし

今も此の世に在るに於ては
 人の心は常に動かし難く
 一たび心を定むれば
 無量の幸福を得べし
 此の世に在るに於ては
 人の心は常に動かし難く
 一たび心を定むれば
 無量の幸福を得べし
 此の世に在るに於ては
 人の心は常に動かし難く
 一たび心を定むれば
 無量の幸福を得べし

あゝ唐傳の伝母して法座を敷
石階より下りてらるるし
つゝとらるるしとて金銀
も千代とんぞくたむとて
あゝ唐傳の伝母して法座を敷
石階より下りてらるるし
つゝとらるるしとて金銀
も千代とんぞくたむとて
あゝ唐傳の伝母して法座を敷
石階より下りてらるるし
つゝとらるるしとて金銀
も千代とんぞくたむとて

あゝ唐傳の伝母して法座を敷
石階より下りてらるるし
つゝとらるるしとて金銀
も千代とんぞくたむとて
あゝ唐傳の伝母して法座を敷
石階より下りてらるるし
つゝとらるるしとて金銀
も千代とんぞくたむとて
あゝ唐傳の伝母して法座を敷
石階より下りてらるるし
つゝとらるるしとて金銀
も千代とんぞくたむとて

中に納じ巻か珠と名付く玉
一乃て子か〜〜〜
海〜〜〜

己
巳
年
月
九
日
吉



132X
28
36₃